

台北市凱達格蘭文化館-日文網頁翻譯（中翻日）

台北市政府原住民事務委員会 凱達格蘭(ケタガラ)文化館文物ガイドハンドブック

主任委員からの序文

台湾原住民文化に蓄積されている多種多様な特質は、台湾になくてはならない文化資産であります。凱達格蘭(ケタガラ)文化館は、台北市における原住民族文化の保存、記録、収集、展示の拠点として設立されました。本館編集のガイドハンドブックは、参観者の皆様に台湾原住民文化の基本的な鑑賞のための分析を提供しており、内容は原住民現代アート、生活用品と楽器、アクセサリ・装飾品、祭儀用品といったテーマ文物をメインとしおります。また、台湾原住民族 14 種族における各種族の人文、風習及び衣服・装飾品文化などを簡単に紹介しております。

凱達格蘭(ケタガラ)文化館は伝統の継承、教育の推進及び革新的な発展という重大な責務を担っております。当ハンドブックが皆様にとって台湾原住民族を認識する入門書となることを願っております。更には、広く宣伝いただき、皆様が台湾原住民族文化の推進、発展を支援くださることを希望しております。

台北市政府原住民事務委員会 主任委員 楊馨怡

文化館

本館は 1997 年から先行作業が推進され、企画、設計、施工に数年間の月日を費やし、2002 年 11 月 3 日、正式に落成いたしました。一階のレンガ歩道は本館の公共芸術品であり、「エスニックつなぎ織り」と命名されており、文化館内の豊富で多元的な文化の内包を示唆しています。

館名は「凱達格蘭(ケタガラ)」と命名されております。昔、中国・漳泉地区からの移民とスペイン人がまだ台湾北部に上陸していなかった頃、北投地区は凱達格蘭(ケタガラ

ン)族の居住地であり、且つ北投地区の開発史において重大な歴史的意義があるため、この名が命名されました。

本館の空間企画では、文物展示、教育訓練、集会、研究討論、図書閲覧、集会交流などを提供することができます。また、2階、3階は常設展示エリアとして、文化館の文物コレクションを展示する空間となっています。近年、デジタル・AVといった現代的な展示方式の推進を行い、台湾原住民族の文化的様相を一つ一つ、ご来館の皆様で紹介できるように希望しております。

台湾原住民族と世界南島民族の関係

台湾原住民族は南島民族(Austronesian(オーストロネシア)又は Malayopolynesian(マレー・ポリネシア)と呼ばれています)の一派に属します。この大語族の分布は非常に幅広く、総人口は3億人近くに達しており、また地理上の分布も極めて広大で、東はアメリカ大陸西岸のイースター島、西はアフリカ東岸のマダガスカル島、南はニュージーランド、そして台湾は南島民族分布の最北端となっています。現在確認されている南島民族の言語は約1,000種類ほどあります。台湾の原住民族は世界南島民族総人口の僅か0.11%となっていますが、近年、考古学、言語学、人類学といった各方面の研究からの証拠により、台湾が古代南島民族の起源であり、アジア大陸東南地区から海を渡った移民及び拡散する過程において、極めて重要な鍵を握る地理的地位にあることが絶えず提示されています。

各種族の風習

阿美(アミ)族

大多数が台湾東端の太平洋沿岸及び花東縦谷に分布しており、台湾西部及び南部にも存在しています。

阿美(アミ)族は母系社会の社会構造を有しており、女性が家族の経済、財産及び継嗣の権利を握っているものの、部落の公共作業は男性が主導しています。男性の年

齡階級を厳密な社会組織としており、各階級に専属の名称、風習及び作業を有し、完全な部落組織を連結、構成しています。阿美(アミ)族は当初、大自然の幅広い靈魂信仰を主としており、農事及び生活から季節の祭儀及び生命的祭儀を派生させておりました。しかし時代の移り変わりとともに、様々な祭儀も徐々に消失しました。現在は7、8月に執り行われる豊年祭のみが最も有名です。

泰雅(タイヤル)族

台北県烏來郷、桃園県復興郷、新竹県尖石郷及び五峰郷、苗栗県泰安郷、台中県和平郷、南投県仁愛郷、宜蘭県大同郷及び南澳郷を含む台湾中北部山岳地帯に分布している台湾原住民の中で最も分布面積が広い部族です。

泰雅(タイヤル)族は紋面(入れ墨)及び巧みな織布技術が有名で、伝統的な泰雅(タイヤル)族の社会は狩りと焼畑開墾を主軸とし、集落は集中居住式村落が主流となっています。男性は狩りに勤しみ、女性は織物に勤しむことで、顔に紋面(入れ墨)を入れることができ、これにより亡くなった後、祖先の霊と会った時に識別できるとされています。泰雅(タイヤル)族は宗教信仰上、祖先の霊を崇拜しており、祖先の霊の庇護により、種族は豊作、狩りの成功、平安が得られるとされています。過去、狩り、焼畑農業が主流であったため、それに関連する各種季節の祭儀が重要とされています。その社会組織はGagaを主軸としており、これを共同の祭事団体として、一緒に食事、狩りをする種族となっています。

排湾(パイワン)族

台湾南部及び東南部の屏東、台東の2つの県が主要分布エリアとなっています。

頭目、貴族は神話に基づき特権階級が与えられており、これにより排湾(パイワン)族特有の頭目制度が構成されています。部落内の部族民と財産は全て頭目の所有に属します。伝統祭儀において、最も重要とされているのが5年祭で、またの名を人神盟約祭と呼ばれています。祭典において、歌と舞の祈禱に加え、藤の球を刺すイベントが5年祭の重要儀式とされており、藤の球を刺した者は1年中幸運をもたらすとされています。その他、祈雨、祈晴、鎮風、除雷といった天候に関する祭祀があり、これには土地、集落、水源が

含まれています。一方、農作に関する祭祀、例えば豊作祭は一連の祭祀で、粟播種儀式、粟入倉儀式、粟収穫祭を含んでいます。その他、狩り、刺青、疫病、家畜、居住、財物、器具、捕魚に関する祭があります。

～台北市凱達格蘭文化館日文網頁翻譯[中翻日](#) [日台日文翻譯](#)～